佳作

「人との出会いから学んだMRの魅力」

櫻井謙介（大塚製薬(株)株式会社 長野出張所）

何も取り柄もなく、資格・特技などのない私は、たまたま地元の大学にあった生物系の学部に進学し、タンパク質の研究を通じて生命の不思議さに触れました。このまま生物に関わることを勉強しながらその知識を活かせる仕事をしたいと希望し、自然に医療業界に就職を希望しました。また、医療はどんなに科学技術が進歩しても、必ず必要なもの、と思った時、その情報を扱うMRにやりがいを感じ、大きな希望を持って就職致しました。

入社当時は、それでも企業である以上利益を追求しなければならない、そのためには理想だけでは続けられないだろう、とっていました。そんな私に、当時の上司は「我々の仕事の先には患者様がいる。そのことは決して忘れてはならない。」と言いました。ドラマや小説に出てくるような方だと思いましたが、このような方の下なら患者様のために尽くしたい、そのために医療関係者の方との情報を扱うMRという仕事を続けられる、と思いました。たまに意見のぶつかることもありましたが、叱られて「なにくそ！」と思い、成果を出した時、「お前には参った！」と言われたこともあります。傲慢な態度を取らずに部下にも謝ることのできる上司は少ないと思いますが、この方の下で新人時代を過ごせたことが私にとって運の良かったことなのだと思います。

私には過去に担当させて頂いた医師の方で忘れられない先生がいます。その方は私が準備不足のまま面談したことをお叱りになられた後、「MRは薬剤師や看護師などと同様な医療スタッフと考えている。私が処方に悩んでいる時に頼りにできるようなMRになってほしい。」と激励して頂きました。その後私は、せめて自社製品だけでも何を質問されても答えられるようにしようと思い、できるだけ細かいテーマを深く勉強するようにし、面談するようにしました。そんな私に先生は面談時間を割いて頂き、処方状況を教えて頂いたり、私からの質問にも答えて頂いたりしました。私も担当が変更となり、先生も異動されてしまいましたが、私の短いMR歴の中で最も印象深い先生です。

その後、様々な機会を得て、私の情報提供が先生方から感謝されるという嬉しい経験もありましたが、一方で副作用の情報収集に時間を費やしたこともあり、落ち込むこともあります。言い尽くされた言葉かとは思いますが「クスリはリスク」ということを忘れずに、

安全性こそ最も求められる情報であることを忘れないようにしております。いろいろな経験をする中で、入社当時は、30歳頃になればMRから別の部署に異動するだろう、と安易な人生設計を行っていましたが、その30歳になった今、逆にMRという仕事に魅力を感じ、もっと続けたいと思っております。続けたいと思えるような仕事に就けたこと、それが「MRになって良かったこと」ではないのかな、と思っております。

私の理想とするMR像は「処方提案ができるMR」です。自社製品だけでなく、医薬品だけでなく、様々な医療の現状を把握し、医師、薬剤師、コメディカルの方より得た情報からその先にいらっしゃる患者様にとって最適の治療を提案できる、そして、様々な疾病と闘っていらっしゃる患者様、そのご家族の皆様にも少しでもお力になれば、私がMRとして活動していることが無駄ではない、と感じられると思います。現実には、医療環境の厳しい変化の中、売り上げ計画の達成・利益の追求を求められる毎日ですが、自分の理想を忘れず、目の前にいる医療スタッフの方々のご努力を忘れず、その先にいる患者様のことを忘れず、自らも命を預かる医療スタッフとしての自覚を持ち、これからも日々活動していきたいと思っております。

今回、このような文章をまとめてみて、私が本当にしたいことは何だったのか、今は何なのか考える貴重な機会となりました。企業人である以上、利益追求という命題があり、医療分野では矛盾しがちな事実かと思えます。そのことに悩むことが多くありますが、再度自分の理想は何か、そのためにこの会社で何ができるのか、考えたいと思えます。ありがとうございました。